

< 今日の説教のポイント ルカによる福音書 14 章 15～24 節 >

1 全体を見渡しながらかえるべき 14 章。その三幕目にあたる箇所。

ファリサイ人に招かれた食事の場面でのイエス様の話が続き、前後とのつながりを考えながら読むことが特に大事な箇所です。すると 13 節と 21 節で挙げられている人々が全く同じであること、また、最後の四幕目の 26 節で言われている厳しい内容は、三幕目までで言われたことから考えなければならないこと、に気づかされます。

2 神様の恵みと私たちが考える恵みは同じ天秤で比較できない！

「盛大な宴会」(16)は、神様が最後に用意して下さっている救いに与ることです(14 節→15 節→24 節)。そのことが分かって読むと、この恵みに先に招かれていた人々が様々な理由で断って「馬鹿だなあ」と思うかもしれません(17-20)。しかし、ここに挙げられている理由一つ一つを思うと、「私も断るかもしれない」とも思うのではないのでしょうか。それに対して示されたイエス様の答こそが 21 節であり、13 節と全く同じ内容なのです。宴会参加を断った人々はこの世的な恵みを与えられ、それを与えて下さった方を思うことは忘れてしまいました。13 節と 21 節に挙げられた人々はこの世的には不幸な人々と思えるかもしれませんが、彼らは主人に招いてもらった宴会の招きを喜んで受け、そして大きな恵みに与れたのです。神様が差し出して下さった恵みと私たちが恵みとするものは、同じ天秤の右と左に載せて比べてられるもようなものではないのです。信仰は、この神様(の恵みの大きさ)に目を向けずに私が信じられるかどうかだけを問うたとしても、それは違うのです。神様の破格の恵みの大きさが分からないときに、「無理に連れて来られた」(23)と思うこともあり得るのです。(1872 年 3 月 10 日に洗礼を受けた 9 人の中の櫛部漸(くしべすすむ)と篠崎桂之助の話)。

3 旧約聖書から一貫して示されている神様の恵み！

実は、旧約聖書ですでに神様のこの破格の恵みは示されています(イザヤ書 56 章 1-8 節)。ですから、ファリサイ人の中にもこの神様の恵みに気づく人がいたのです(15)。先に招かれた人、後で招かれた人、まだ席があるので連れて来られた人(異邦人)、神様は全ての人を招いておられるのです。光あるうちに光の中を歩め(ヨハネ 12:36)です。